

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職幼小		17657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 直子	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、 上級教育カウンセラー、教育委員会			

授業の到達目標

激変する社会に対応できる子どもたちの育成に必要な資質や能力を高めるために、教育技術について理解を深めるとともに情報機器や教材作りへの関心を高める。また、アクティブラーニングの意味を理解するとともに、参加体験・ディスカッションを通して使える技術を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)I(知性)の育成をめざす。

授業の概要

教育方法の概要、教育方法学の歴史、日本の授業と授業研究、教室の日常会話から学ぶこと、コンピューターと教育。などを軸として『学び』について深く考える。さらに、激変する社会に対応できる教育の方法や技術について学ぶとともにそれを生かした情報機器の活用能力を高める。今日の教育課題にも対応できるように、新学習指導要領からキーワードを解説する。

授業計画

- 1 教育方法と授業について基礎的な理論を理解する。
- 2 教育方法をより深く理解するために日本と諸外国とを比較して学ぶ。
- 3 授業と教育方法の基本原則の一つとして系統学習と問題解決学習を理解する。
- 4 個々の考え、意見を授業で分かち合い高めあう授業の創造。
- 5 自分の考えと他者の意見を議論しながら、主体的・対話的な深い学びについて体験する。
- 6 系統的な学び、単元を貫いた授業づくりのための教材選定、教室環境を理解する。
- 7 育みたい資質・能力を育む教材研究と授業のありかたを理解する。
- 8 聞き手によくわかる話し方(話法)について基礎的な技術を身に付ける。
- 9 めあてを共有できるような板書の工夫を考える力を育てる。
- 10 学習指導案での子どもの実態を把握する技術を理解する。
- 11 学習指導案での教材の持っている価値を見抜く技術を理解する。
- 12 学習指導案での指導観の意義と書き方を理解する。
- 13 学習指導案での展開部について、時間配分や軽重を考えながら書くようにする。

- 14 幼児の興味関心を高める情報機器、ソフトウェアを選定し活用することができる。
- 15 子どもたちの実態や効果的な時期にあった情報機器を活用しその能力を高めかつ、情報モラルも理解する。
講義後、試験を実施

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

参考図書からレポートを指示することがある

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する。

参考図書

必要に応じて指示する

教員連絡先

yamamotonaoko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 直子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校「国語科」の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解したうえで、教科書教材の指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業規律・授業内容についてのガイダンス、国語と国語科
- 2 国語科教育の意義と役割
- 3 国語科の目標と内容
- 4 学習指導要領に基づいた学習指導計画
- 5 国語科の指導法と評価
- 6 話すこと・聞くことの指導
- 7 書くことの指導
- 8 説明的な文章の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
- 9 文学的な文章の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
- 10 音読・朗読の指導
- 11 伝統的な言語文化の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
- 12 国語の特質に関する指導
- 13 模擬授業(低学年)
- 14 模擬授業(高学年)
- 15 これからの国語科教育の課題

授業の方法

発表やディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを読んだり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

吉田武男 監修『初等国語科教育』ミネルヴァ書房
文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度(模擬授業の準備やレポート等を含む)を重視する。小学校国語科の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（幼稚園）Ⅱ		17707	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
佐原 信江	選択	1	公立幼稚園教員		

授業の到達目標

1 週間実習の成果と課題を生かして、さらに充実した3週間実習となるよう、教育実習の目的意識と実践力を確かなものにする。実習終了後は評価反省を行い、幼稚園教諭となるにふさわしい自分をめざす。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）の育成をめざす。

授業の概要

1 週間実習の成果と課題を自ら明確にし、3週間実習に意欲的に取り組めるようにする。実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例をもとに教材研究などを具体的に学ぶ。実習終了後は自らの課題を明確にし、その課題克服に努める。

授業計画

- 1 実習園でのオリエンテーション(依頼電話のかけ方、訪問に際して等)
- 2 指導実習に向けての教材の作成①
- 3 " ②
- 4 " ③
- 5 絵本の読み聞かせとリズム遊び①
- 6 " ②
- 7 実習園のオリエンテーションを受ける。
- 8 実習園の教育理念や指導方法を学ぶ。
- 9 指導実習に向けての教材研究と指導案の作成①
- 10 " ②
- 11 実習記録の記入方法について
- 12 実習に向けて留意事項の再確認
- 13 礼状の作成
- 14 実習園の評価をもとに反省と考察を行い、課題を明確にする。
- 15 まとめ

授業の方法

実習園の教育方針について理解すると共に、教材研究や指導案の作成、実習記録の取り方など、実際に即した内容で授業を進める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

- ① 提出を求めるシート等について、授業内で評価と助言を行う。
- ② 平常点70%、定期試験30%

欠席について

必ず全回出席である。やむをえず欠席する場合は必ず事前に申し出ること。その場合のみ、1回につき3点減点する。

テキスト

「幼稚園教育実習の手引き」本学作成 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「あそびうた大全集200」永岡書店

参考図書

「教員をめざそう！」文部科学省

留意事項

免許取得のための教育実習に向けての授業であることを十分心得ておくこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職幼小PC	17713	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
山本 直子	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員		

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責について理解を深める。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
- 2 教育制度の歴史と発展 1
- 3 教育制度の歴史と発展 2
- 4 子どもの権利と人権 1
- 5 子どもの権利と人権 2
- 6 教育制度を学ぶ意義 1
- 7 教育制度を学ぶ意義 1
- 8 教育法 1
- 9 教育法 2
- 10 教育の目的と目標
- 11 学校の制度
- 12 義務教育の制度
- 13 教育の機会均等
- 14 教職員の制度
- 15 まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べた

り、レポートを作成したりすること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修（予習・復習）に費やすこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席については、大学が認める欠席以外考慮しない

テキスト

必要な場合授業時に指示する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

yamamotonaoko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。